

## 第24期日本学術会議 第6回環境学委員会

### 議事録

日 時：令和2年4月16日（木）16：00～18：00

場 所：遠隔会議（主催会場：環境学委員会委員長自宅）

出席者：石川義孝、岡田真美子、西條辰義、高村ゆかり、秋葉澄伯、石塚真由美、武内和彦、丹下健、南條正巳、古谷研、浅見真理、阿尻雅文、磯部雅彦、高橋桂子、田辺新一、中村尚、春山成子、石川幹子、花木啓祐、福土謙介、鷺谷いづみ、渡辺知保（名簿順）

欠席者：大政謙次、蟹江憲史、横張真（名簿順）

### 議 事

#### 1. 前回議事録の確認

一部の語句を修正し承認。

#### 2. 分科会からの報告

- ・長寿・低炭素分科会、環境リスク分科会、都市と自然と環境分科会、環境科学分科会から、活動状況の報告があった。
- ・提言や報告を検討するにあたり、日本学術会議の他委員会・分科会における関連活動の状況が見えにくいことが指摘され、情報共有の必要性が確認された。
- ・環境学委員会からの国際発信の機会として、2020年秋にサウジアラビアで開催予定のS20においてCOVID-19、海洋プラスチック、循環社会が話題となることが紹介された。

#### 3. 「環境学の俯瞰」以降の環境問題と環境学の今後の課題

- ・環境学委員会からの提言を次期に発出するために、今回はとりまとめの仕方や内容に関する議論等の作業をできるだけ進め、可能であれば記録として公開することが確認された。
- ・①2030年、さらにはその先を見据えて、「環境学の俯瞰」で提示された枠組みについて、修正、変更、追加が必要と考えられる点はあるか、「環境学の俯瞰」に記載されていない事項で、記載が必要な事項はあるか、②日本が優先的に取り組むべき環境問題・課題は何か、③特筆すべき環境学の新たな展開と優先的に取り組むべき研究課題は何か、について委員から書面等として提出された意見が紹介された。引き続いて「環境学の俯瞰」以降に浮かび上がってきた、あるいは重要性が増した事項として、異常気象と災害、FEとSDGsの関連、planetary boundary、環境と人の健康、環境学と社会の対話、人間の活動による人間への影響、インフォメーションテクノロジー、フューチャーデザイン、レジリエンス、技術開発は何のためなのか、経済発展のあり方、人材育成・教育、国際協調などが挙げられ、意見交換を行った。これらの内容を、資料3-6を基に整理して文章化した後、改めて各委員に諮ることとした。
- ・高村委員長から、「環境学の俯瞰」以降について上記②、③を中心に可能であれば今期記録として取り纏めることとし、環境科学の考え方・アプローチについて焦点とメッセージを明確化する方針が示された。

#### 4. その他

今回は、7月の総会前後を目途に調整する。